



国民の森林・国有林

中部森林管理局

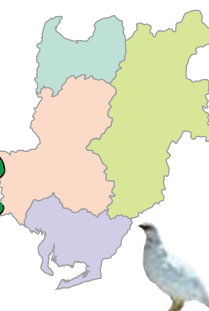
〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



左側：長野国有林整備協会 花見会長、中央：中部局 鈴木局長、右側：名古屋造林素材生産事業協会 牧野会長

森林被害対策ボランティア制度に関する協定締結

(P 2 に関連記事)

主な項目	○ 地域から感謝状をいただきました P 2～3 ○ 施業モデル林現地検討会を開催 P 3 ○ 「生産と造林の一貫作業システム」現地説明会を開催 P 3～4 ○ 各地からのたより P 4～8 ○ シリーズ「森林官からの便り」 P 8～9 ○ シリーズ「ご当地自慢」 10
------	--

森林被害対策ボランティア

制度に関する協定締結

「森林整備課」十二月二日、中部森林管理局大会議室において、「中部森林管理局森林被害対策ボランティア制度に関する協定」が、中部森林管理局長と長野国有林森林整備協会会長並びに名古屋造林素材生産事業協会会長との間で、調印・締結されました。



協定書調印の様子（テレビ取材も）

この協定は、森林病虫獣害及び気象害等（以下「森林被害」という。）の防止に向けボランティアを活用する新たな取組であり、中部森林管理局が管理する六十六万ヘクタールの国有林野において、発生若しくは発生の恐れがある森林



協定書調印後の握手

被害について、迅速かつ円滑に森林被害対策及び予防対策を実施するため、森林被害対策ボランティア制度に関する活動の基本事項を定めたものです。

協定相手方である両協会には、森林被害対策ボランティアとして登録された方を、森林管理署長等からの協力要請に基づき派遣し、収集した情報をとりまとめて、森林管理署長等に報告書を提出していただくものです。

なお、登録された森林被害対策ボランティアの活動内容は、①森林被害の状況把握及び情報収集②山火事発生危険期等における森林パトロール③国民の森林クリーン月間（七月）における廃棄物不法投棄予防のためのパトロール④局署に災害対策本部が設置された山火事等の状況把握、二次災害防止のための立入禁止等の応急措置をお願いすることとしています。

中部森林管理局では、「国民の森林」を具現化する取組として、公益重視の管理経営の一層の推進、森林・林業再生への貢献等に向けた現場管理機能の強化並びに林野火災及び不法投棄の防止、ニホンジカや松くい虫、ナラ枯れ等による病虫獣害による被害防止のための取組が必要とされるところであり、本制度を活用した情報に基づき、迅速かつ円滑に森林被害対策及び予防対策を講じていくこととしています。

地域から

感謝状をいただきました

「東濃署」十一月二日、東濃森林管理署庁舎の移転十周年を記念して、中津川市及び地元協議会等の主催による感謝状の贈呈式と記念植樹が行われました。



記念植樹後の記念写真

式典では、長年にわたり東濃署が地域振興に寄与したとして、中津川市長から中部森林管理局局長へ、付知町まちづくり協議会長から東濃署長へ、地元産ヒノキで額装された感謝状が贈られました。



市から次長へ感謝状が

また、同協議会の早川正人会長から、「東濃署は、明治十九年に付知村橋詰に岐阜大林区署付知派出所として開所されて以来、地場産業の振興及び地域社会の発展に大きく貢献されてきました。いつの時代も森林管理署の存在は、地域住民とともに、「木の町付知」にとつてかけがえのない大きな力となっています。平成十五年に現庁舎が新築され、この度十周年を迎えられました。この機に地域の有志・団体が集まり、感謝の意を表すとともに、森林管理署と地域の連携が更に

伸展することを祈念します。」と、心のもったお言葉をいただきました。

その後、地元中学生らとともに中津川市の木「コウヤマキ」、旧付知町の木「ヒノキ」、岐阜県の木「イチイ」など四種類五本の苗木が植樹されました。



協議会長から東濃署長へ感謝状が

式典は、国有林内を散策する「つけちハツラツウォーキング」の参加者約百名も出席する中で和やかに行われ、山元中部局次長と間島東濃署長が御礼と感謝の気持ちのご挨拶をさせていただきました。

今回、多くの方々に、地域と東濃署のかかわりを理解していただいたものと思います。当署としまして、引き続き、「ここに森林管理署があつてよかった」と喜んでいただけるよう、地域の声に耳

を傾けながら業務に取り組んでいこうとの思いを新たにしたいところです。



山元次長と地元中学生

施業モデル林

現地検討会を開催

【中信署】中信森林管理署は、中房国有林での、人工林ヒノキ上層木百九年生、下層木三十年生からなる複層林箇所、低コスト・高効率システムによる育成受光伐作業を行った「施業モデル林」として整備を進めています。

今年度は、森林作業道の新たな技術の普及と定着に向けての取組として、十一月十四日に森杜（もりもり）産業株式会社 田邊 由喜男氏を講師に迎え、現地検討会を行いました。



森林作業道作設実演

傾斜約三十度以上の林地では従来、波形線形とスイッチカーブ等により作設してきた森林作業道について、幅二・五メートル以下で縦断勾配を十度前後に一定に抑えて、フォワーダの運搬効率と安全性を高める手法を取り入れた森林作業道の作設方法と、新手法により作設された森林作業道でのフォワーダ「やまびこ」最大積載量三・一トンによる積み込み・運搬・荷下ろし作業などの実演を行いました。

参加した長野県内の行政関係者、林業事業体、NPO、中部局管内の職員約六十名は、パイプ類を利用した排水方法や表土ブロック積、丸太による土留め及びカーブの作設などのポイント毎で説明を受けました。参加者からの湧水地での施工方法やカーブの設置方法及び「やま

びこ」の操作方法等についての質問に、講師から詳細な作設手法の説明がありました。



フォワーダ「やまびこ」作業実演

「生産と造林の

一貫作業システム」

現地説明会を開催

この施業モデル林は、今後、高齢級の人工林ヒノキ複層林における低コスト・高効率システムでのモデル箇所として中信地方の国有林、民有林の研修視察の場に活用する考えであり、生産コストや伐採、搬出に伴う保残木の損傷状況等も調査研究していく考えです。

【北信署】北信署では、中部森林管理局管内では初めてとなる生産（皆伐）から造林（植付）までを一貫作業で発注する

ことによる低コスト作業の実施を、信濃町の霊仙寺山国有林において取り組んでいます。

作業が終盤に差し掛かった十一月十二日、この作業システムのPRと普及を目的に報道関係者等を対象とした説明会を開催しました。

一貫作業システムとは、高性能林業機械による伐採・集材・玉切・運搬という生産システムに、植栽工程が軽減できるコンテナ苗を専用の植栽器具を使用して植え付ける作業を加えた作業システムのことで、複数年にまたがる事業を、単年度で実行することができ、作業の効率化が図られます。



コンテナ苗植付作業取材の様子

国内の人工林の多くが主伐期を迎える時期ですが、材価の低迷や植付・保育に

要するコストが高いこと等から主伐が進まない状況にある中で、この作業システムにより再造林コストの削減が図られることになれば、主伐から植付・保育・主伐といった循環型の林業への誘導が期待できます。



テレビ取材の様子

説明会には、テレビ局や新聞社など六社と、県関係者、一貫作業のコスト分析等について連携して実施している信州大学農学部、事業受注者の長野森林組合を含め二十七名が参加しました。初雪と寒さの中での実施となりましたが、報道関係者からは、普段では見られない高性能林業機械、木質バイオマス利用拡大の取り組みやコンテナ苗に関する具体的な質問が出され、一貫作業システムへの関心の高さがうかがえました。

各地からのたより

山岳ガイド協会研修で

局長が講演

「中信署」十一月十一日に北アルプス上高地にある、上高地治山事業所詰所を講義室に国内最大のガイド団体である公益社団法人日本山岳ガイド協会の研修で、鈴木局長が「上高地の森林と仙人（そまびと）の歴史」と題して講演しました。

当該研修は山岳ガイドの認定資格を取得するために行われるガイド実地研修の検定員を養成するためのもので、北海道から九州までの山岳ガイド十八名を対象に行われました。



受講の様子

講演では、上高地の木材利用や牧場利用等の歴史を紹介し、上高地がかつては人々のくらしの基盤として利用されていたことや、大正五年の保護林設定以降、上高地が現在のように自然保護を重視して管理されるようになったこと等を紹介しました。また、施業実施計画図を参考に図面の見方や森林管理局では上高地国有林をどのように管理しているかを紹介しました。

受講者からは「過去の土地利用の歴史がガイドのヒントになる点が多い」、「現在の上高地も林班・小班毎に緻密に管理されていることに感心した」等の感想が聞かれました。

名古屋木材組合の

国有林視察会を開催

「名古屋事務所」十月十七日、名古屋木材組合（鈴木和雄組合長）の研修として、間伐実行現場（段戸国有林）視察会を開催しました。

当日は、台風二十六号通過の影響もなく、台風一過の晴天となり、絶好の見学日和となりました。

名古屋事務所では、愛知県内の木材業界関係者を対象に、国有林への理解を深めていただくこと、川上と川下の連携を強化することなどを目的に、名古屋木材組合と検討を重ね企画したものです。参加した約五十名は、原木市場、製材業者、チップ製造業、建設業、工務店等々

の職員で、日頃から木材に関わる仕事をしていても、間伐作業・森林整備の実際の現場作業を見るのは初めての方々がほとんどでした。



高性能林業機械による造材等に、驚く参加者

間伐実行現場では、愛知森林管理事務所の協力を得て、スイングヤードによる集材、プロセッサによる造材作業の工程を見学しました。高性能林業機械による間伐作業の一連の流れを見た参加者は、「最近の森林作業の様子がよくわかった。」「あつという間に丸太になるのに驚いた。」「と感嘆の声を上げていました。」

その後、森林作業道の重要性、木材の流通、木材利用の推進などについて様々な質問が出ましたが、山元次長はじめ担当者らが丁寧に説明をする等、有意義な意見交換の時間となりました。



参加者からの様々な質問に答える山元次長

昼食は、紅葉が始まりかけた段戸湖畔でとり、裏谷原生林の散策を楽しみました。「愛知県にこんな原生林があるとは知らなかった。家族でまた来よう。」という参加者もいました。

午後は、設楽町役場新庁舎を訪問しました。同新庁舎は平成二十六年一月より運用開始される予定で、木造平屋建て庁舎はほぼ完成していました。役場、議場、図書館、子供センターなどからなり、設楽町産材をふんだんに使用した造りとなっています。今後、林業の盛んな地域のシンボルとして、町民の誇りとなる庁舎になることを祈り、帰路につきました。

参加者からは、「同じ木材を扱う仕事をしていながら、材木がどうやって生産されるのか見たことがなかった。今回実

際に目で見ることで非常に有意義であった。」「これから、このような見学会を続けてほしい。」との感想や意見も寄せられました。

名古屋事務所では、こういった意見に応えるために、今後も川下の方々には森林を見ていただき、国有林のPR並びに木材利用の推進に努めていく考えです。



町の木材をふんだんに使用した設楽町新庁舎の事務室

中学生の職場体験学習

【東濃署】十月二十三日から二十五日までの三日間、中津川市立付知中学校二年生の生徒二名が東濃森林管理署において、職場体験学習を行いました。

あいにく台風二十七号の接近により、



業務服に身を包み懸命に取り組む生徒

空模様を見ながらの体験となりましたが、川上国有林で林道工事箇所の現場監督業務の補助及び林分調査、付知裏木曽国有林で生産事業の確認を行ったほか、署内では自分たちで測量した成果をパソコンに取り込んだものの図面作成、反射実体境を用いた空中写真への国有林・林境界の書き込みなどを行いました。

参加した青山君と加地君は「祖父が国有林で働いていたので林業の仕事に憧れています。」「大工の仕事を将来継ぎたいので木や森林について知りたいです。」と、しっかり目的を持ってどの業務も懸命に取り組んでいました。体験後は「森林管理署の仕事は簡単ではありませんでしたが、祖父の仕事を手伝ってもっと林業に慣れていきたいです。」「森林管理署は森林の保育など山での仕事が目ざると思っていました。」「様々な仕事があるのにビックリしました。」「挨拶の大切さを

〔中信署〕 毎年、松川小学校四年生を対象に行われる村の炭焼き体験と併せて、隣接する馬羅尾国有林の郷土の森内の「あがりこサワラ」の森林学習（見学会）を十一月二十八日に行いました。

「あがりこサワラ」で森林学習

感じました。」と感想を述べていました。

最後に、間島署長から「この体験を機に、木や森のこと、地域とのつながりについて更に勉強してください。」と激励して体験学習を終りました。

東濃署は、今後も森林環境教育や職場体験学習を通じて地域の子供たちに森林について学んでもらう活動にも協力していきたいと考えています。



職員の手ほどきを受け真剣な表情の生徒

この見学会は、中部局と北安曇郡松川村が、平成二十四年一月に「安曇野まつかわ馬羅尾高原郷土の森」協定の締結により行っています。

あがりこサワラとは、樹木を台伐りすることにより、萌芽し奇妙な樹形となるものを一般的に「あがりこ」と呼んでおり、サワラにおいてもこのあがりこ型樹形が見られます。しかし、サワラの萌芽力は低く特徴として、台伐り位置を固定せず徐々に上方へと伐採し側枝を主幹として立ち上がらせることで奇妙な樹形を形成していったものをいいます。

当日は小雨であつたため、炭焼き体験を終えた後、村の林遊館にて児童にあげりこサワラについて森林教室を行い、天候を見ながら現地見学を実施しました。



あがりこサワラの見学

全体で百十三本ある「あがりこサワラ」の中には、子供がぐぐり抜けることのできる根張りをした形の樹もあり、寒い中でも児童達は珍しいサワラ巨木群を間近で見えて感動に浸っていました。森林学習終了後には、署で作製した「もっくん」(桜枝ストラップ)を児童一人一人に配布し学習の記念としました。



あがりこサワラをくぐる児童

今後も松川小学校の「あがりこサワラ」森林学習は継続的に行っていくことから「郷土の森」として愛着がわくよう、代表的なサワラにニックネームを付けるなど、併行して来年度にかけて松川村と案内看板や標柱を設置していくことで、地域振興に貢献していきたいと考えています。

「林政協議会木曾谷部会」の開催
 民国林野行政の連携に向け

〔木曽署〕十一月二十七日（水）に木曽森林管理署、南木曽支署と長野県木曽地方事務所で構成する林政協議会木曽谷部会が開催されました。

当部会は、木曽谷流域の国有林及び民有林の林政を統一的に推進することを目的に年二回、署と県が持ち回りで、現地の検討会や打合せ会議を実施しています。

今回は、木曽地方事務所林務課、木曽森林管理署、南木曽支署、木曽森林ふれあい推進センターの十七名が参加し、南木曽支署管内の柿其国有林の架線集材箇所と阿寺国有林の樹齢百四十年のヒノキ人工林展示林で現地検討を行い、県職員の方々からは、「作業現場を見る機会が少なく、特に近年民有林では少なくなつた架線集材を見られた。樹齢百年を超える間伐現場を見ることはない」とのこと。で熱心に質問されていました。

その後、当署会議室で打合せを行い、国有林の一般会計化と森林整備推進協定を締結したことも踏まえ、地方事務所からは民有林の森林整備の労働力の不足、森林整備推進協定に伴う共同施業団地の設定と協議会の開催、ニホンジカ対策の状況等の情報提供があり、国有林側からは来年度の生産事業の予定、センサーカメラを用いたニホンジカの生息状況の把握、共同施業団地の設定推進、病虫害対

策等の情報を提供し、意見を交換しました。



現地での検討会

特に、木曽谷流域の林業労働者の確保には、事業体に対し将来にわたる信用性の高い事業量等を提示することが不可欠であり、流域全体の共同施業団地の設定の早期実現に取り組むこと、ニホンジカ等の獣害対策には生育状況等民・国で情報を共有し、林業施策を進めることを確認しました。

今回は三月に実施の予定ですが、引き続き、顔が見える関係を深め迅速で気軽な連絡調整を行うことにより木曽谷流域の森林・林業の発展に努めていきたいと考えています。

「戸隠森林植物園」で

ボランティアによる冬支度

「北信署」十一月二十二日、長野国有林森林整備協会北信支部会員十二名が社会貢献活動の一環として戸隠森林植物園でボランティア作業を行いました。

戸隠植物園では積雪前に閉園の準備を進めています。当日は例年になく早い降雪があり、積雪の中での作業となりました。

作業は、バリアフリー歩道に転落防止と湿地帯への侵入防止のため設置してあるグリーンロープの撤去作業と歩道沿線にある枯枝等の除去作業を実施しました。



グリーンロープ巻き取り作業

グリーンロープの撤去は延長二キロに及ぶ区間のロープを巻き取っていく作業ですが、巻き取りがスムーズに出来るように要所に人員を配置し、連携してロープをたぐり寄せながら手際よく作業を進めていきました。

枯枝の除去は、入園者の安全確保のため落下の恐れのある枝を事前に打合せのうえ実施しました。



枯枝除去作業

樹上でのチェンソーによる枯枝処理は危険を伴う作業ですが、森林整備協会員ならではの熟練した見事な技術により短時間で安全に処理され、ロープ撤去作業をしていた参加者からも手際の良さに感嘆の声が上がっていました。

ボランティアの皆様のおかげで、今年も沢山の来園者により賑わった植物園も冬を迎える準備が整いました。

しばらくは白銀に埋もれて来春の開園を待つこととなります。

OBからの便り

「マメやったかな」

～古川営林署OBの集いに参加～

岐阜県飛騨市古川町にあった古川営林署は、国有林の抜本的改革の取り組みの中で、平成十年に古川森林管理センターに改組され、平成十三年八月には他の暫定組織とともに廃止され七十年の歴史に幕を下ろしました。それから十二年。当時古川営林署に在籍した人たちの間から、集まりを希望する声が出たことから、「OBの集い」を計画。十一月十六日（土）、想い出の地の老舗料亭「蕪水亭」に遠くは北海道から、最高齢は九十歳の方など各地から四十三名が集い、当時の想い出や近況などに話がはずみました。

当日は紅葉も最後の輝きを見せる小春日和の穏やかな日となり、早くからJR飛騨古川駅に降りて懐かしい町並みを散策する人がいたり、会場となる蕪水亭では開始となる一時間前から続々と集合、早くも昔談義が始まっていました。

集いには来賓として井上久則飛騨市長、菅沼武旧古川町長、鈴木信哉中部森林管理局長、清水信之飛騨森林管理署長にご出席を賜り、来賓の挨拶では井上市長からはたくさんの方が古川に集まってくれたお礼とともに、飛騨市周辺が平成十一年に大きな自然災害に見舞われたこ

とから、これを教訓に森林づくりに取り組む飛騨市の姿と国有林への期待などの挨拶をいただきました。

菅沼元町長からは古川営林署が廃止され跡地の有効活用で国有林と話し合い、今では市民の様々な活動の拠点となる施設の整備ができたといったお話や、国有林への期待などの挨拶をいただきました。



挨拶をされる井上久則飛騨市長

鈴木局長からは、営林署がなくなると在籍した職員も集まらなくなることから、昨年は王滝営林署の関係者が集う会を開催。今年はこちら古川営林署の関係者で取り組んでいただいた。こういった形で少しでも地域のお役に立てればと挨拶をいただきました。

老田薫元次長の乾杯で宴が始まり、飛騨地方の祝宴では「めでた」が出ないと無礼講とならないことからその間に、参

加者一人一人から自己紹介をいただきました。そのあと、地元の土洞昭博さんから「はだか祭り」で有名な「起こし太鼓」のいでたちで古川めでた「若松様」の歌い出しをしていただき、参加者全員で唱和し無礼講へと…。



はだか祭りのいでたちで「若松様」を歌う土洞昭博さん

無礼講になるとそれぞれ懐かしい顔のところへ行き、飲むほどに、酔うほどに、話が盛り上がり大宴会となりました。参加した人たちは、「本当に懐かしいな。マメやっただけ」「一度みんなで会えればいいなと思っただけ、こんな機会を作ってくれて嬉しい。」など、満面の笑みで語っていました。また、残念ながら参加できなかった方からの電報やおいしい焼酎の差し入れなど、会場の外からも宴の場を大いに盛り上げていただきました。

あつという間の三時間が過ぎ、最後に北海道から参加の日高北部署首席森林官中山佳之さんの一本締めで中締め。名残を惜しみながら帰る人、街中に繰り出す人など賑やかな集いとなりました。



無礼講となり大宴会

参加いただいた皆様、ご来賓の皆様、そして電報などをいただきました皆様、心からお礼を申し上げます。会場の蕪水亭の女将さんからは建物が平成十六年の豪雨で被害を受け、今の建物は河合村から移築したものと紹介がありました。おいしいお酒と料理をありがとうございました。それにしても本当にお酒が強い人ばかり…。



王滝事務所全職員

木曾ヒノキの生産の最盛期には、約三百人にも及ぶ職員が働いていましたが、現在では、森林官三名、主任森林整備官一名、治山事業所主任一名、地域技術官一名、森林技術員五名、併せて一一名が一つ屋根の下で協力して事業を進めています。

木曾森林管理署の王滝地区は、霊峰御嶽山の南側山麓から西は岐阜県境までが管轄区域で、統合前は旧王滝営林署が設置されていましたが、現在は、瀬戸川・水ヶ瀬・南滝越の三森林事務所です。約二万六千ヘクタールの国有林を管理しています。



菊池 洋二 地域統括森林官



瀬戸川の木曽ヒノキ

木曽ヒノキの優良木が宝庫だったこの地では、古くからヒノキの植林が行われ、樹齢百年前後の高齢級人工林の林分がたくさんあり、本年度の間伐事業も百二十四ヘクタールで一萬二千立方メートルを生産する他、主伐でも木曽ヒノキ等約三百三十立方メートルを生産する予定です。

また、過去の伐採に伴う造林事業も膨大なもので、下刈りや除伐、薬剤散布等一千ヘクタールに及びます。

この他、総延長三百二十キロメートルに及ぶ林道の維持修繕、約二百箇所の収獲調査や択伐箇所の更新調査、巡検等様々な業務がありますが、これらの事業を進めるには、森林官等だけでは到底困難なことです。幸いにも今年度から基幹作業職員が森林技術員や地域技術官となり、森林官の補助的な業務に従事することになりましたので、彼らの強力な応援を得て、王滝の森林事務所は一体となつて事業を展開しています。



ヘリ集材の様子

国有林が木曽ヒノキの一大生産地として事業を進める一方、地元王滝村は、霊峰御嶽山の信者や一般登山及びスキー等の観光を主な産業として発展してきましたが、社会情勢の変化により他の地域同様に入込者数も著しく減少しています。村としても生き残りをかけ様々



境界巡検（御嶽山）

な取り組みを行っています。その一つとして、愛知用水の水瓶である牧尾ダムとの繋がりがもあり、名古屋市などの下流域との交流が盛んに行われているとともに、広大な国有林等の大自然をフィールドとしたマラソン大会やマウンテンバイクレースが年五回実施され、毎回、千人前後が参加する大きな大会として定着しています。

また、木曽ヒノキの生産の最盛期に木材の搬出や地元住民の生活にも活躍してきた、森林鉄道を復活させ、二年おきにフェスティバルも開催されています。

地元あつての森林事務所として、これから、地域のイベントにも積極的に協力するなど、地域と連携を深め、業務を進めていきたいと考えております。

人のうごき

林野庁人事（抄）

十二月一日付

▽林野庁国有林野部業務課測定専門官

森林整備部企画官（技術開発・普及担当） 佐竹 敏郎

十二月十六日付

▽林野庁林政課企画課 計画保全部計画課生態系保全係長 市川 隆史

中部森林管理局人事

十二月十六日付

▽計画保全部計画課生態系保全係長

飛騨署栃尾森林事務所森林官 山本 武郎

▽飛騨署栃尾森林事務所森林官併任

飛騨署本郷森林事務所森林官 原田 昌弘

行事・会議等の予定

◎中部森林技術交流発表会

1月29～30日 中部局





金華山と長良川

◆**金華山**
岐阜の「ええとこランキング！ベストテン」で堂々の一位となった金華山（国有林）は、岐阜市の中心部に位置し、標高は三百二十九メートルと低いものの御嶽山や濃尾平野の眺望がすばらしく、年間百万人もの登山者が訪れる市民の憩いの場となっています。

平成二十三年二月「史跡岐阜城跡」に指定され、江戸時代から四百年間手かずの自然が残る景観と歴史に恵まれた岐阜市のシンボルとなっています。

◆**長良川**

岐阜市の中心を流れる長良川は、大日ヶ岳から伊勢湾に注ぎ、昭和六十年には「名水百選」に選ばれた美しい川であり、また、河川では唯一、平成十三年の「日本の水浴場八八選」にも選定された水量豊かな清流です。

◆**長良川鵜飼と鵜飼観覧船造船所**

古典漁法を今に伝える長良川鵜飼は、千三百年以上の伝統を誇り、見る者を幽玄の世界へと誘う夏の風物詩となっています。



長良川鵜飼い

この鵜飼を、陰で支えるのが鵜飼観覧船造船所です。市営の造船所は全国唯一で、伝統的な和船の建造段階を見学することができます。



造船風景

観覧船の材料は、岐阜・長野県産の良質なコウヤマキ（長さ五メートル、末口四十センチメートル以上）を使用しますが、一本の丸太から使用できる板は八枚くらいしかとれません。また、設計図面はなく、経験豊かな船大工の匠の技で建造され、観覧船一隻の完成には約半年間かかり、一年間に二隻の船が造られます。



鵜飼観覧船造船所

◆**古い町並みの川原町**

長良橋南詰の鵜飼観覧船のりばから西へ続く「湊町・玉井町・元浜町」の町並みは通称「川原町」といい、格子戸のある古い町並みが今も残る人気スポット。

この地域は江戸時代より長良川の重要な湊町として奥美濃からの木材や美濃和紙の陸揚げがされ、それを扱う問屋町として栄え、特に美濃和紙は岐阜提灯、岐阜和傘、岐阜うちななど岐阜の伝統工芸には欠くことのできない物で川原町が岐阜の工芸品を生んだといえます。



古い町並みの川原町

◆**アクセス**

JR岐阜駅から岐阜公園まで

岐阜バスで約二十分